

講社 百年祭の年 祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に  
慎んで申し上げます

“めいめいの身の内よりのかりものを知らずには何も判らんと仰せ下されておりますが 私達一同このお道にお引き寄せ頂き 生かされて生きる人生の真実をお教え下され お蔭で心のふしんにつとめつゝ 日々を明るく暮らせるように相成り御礼申しようもございません

その中にも今日の吉き日は これの の月次祭日に  
当たりますので 神人和楽親子団楽の具体像とも云える陽気  
づとめを只今から一手一つにつとめさせて頂きます

さて 今年一年は教祖百年祭の年でありますが 私たちは教祖あればこそ親神様を学ばせて頂き 又教祖の道すがらをひながたとして通らせて頂けば 私たちは自他共に睦び合う真の幸せな日常生活を送り迎えることが出来るのであります  
更に

“人間を創め出したるこの親は 存命でいる これがまことや”  
のお言葉通り教祖の影は見えなくても働きの理が見えてある  
のであって 元のやしきに今も尚お住まい下さる教祖に 私  
たちは御満足頂けるよう今後は一層つとめ励まねばなりません  
それには一より始めるの真意を体し 未信の新しい方々をお  
ぢばに案内し 教祖の温かい膝元で人生のあり方を学ぶべく  
別席者修養科生などの募集に心を籠め 自らは朝夕のおつと  
めに より真剣度を加えて参りますが 親神様にはどうか人  
を救けて我が身救かる共存共栄の実をこれの講社の先々にお  
見せ下さいますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い  
申し上げます